

清家あい4つのチェンジ

港区から新しい未来を!

チェンジ 1

新しいまちづくり

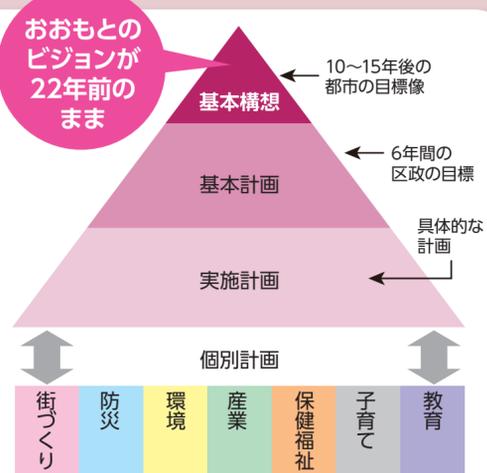
港区の「ビジョン」を 22年ぶりにアップデート!

自治体にとって最も大切な都市経営ビジョンである「港区基本構想」が、22年前に策定されて以来、一度も更新されていません。

本来、10~15年ごとに見直すべきもので、港区のすべての施策の“おおもと”になります。

この20年で、人口動態が大きく変化し、テクノロジーは進化し、グローバル化が進み、時代は急速に変化しました。

区役所の「前例主義」「縦割り主義」を変え、新しい民間の発想で、世界をリードする「港区ビジョン」を、一緒につくっていきましょう。



チェンジ 3

優しいまちづくり

もっと「人を大切に」 (子育て・教育・福祉)

港区ではこの20年で、約20の再開発を終え、さらに25を計画予定中。10年後には人口が5万人以上増え、32万人になる予測です。

人口増が見込まれているにもかかわらず、学童クラブ、介護・障がい者施設、小学校、運動場など必要な区民ニーズの整備が遅れています。教育・福祉現場は、人手不足で疲弊しています。

区民ニーズを正確に把握して整備し、「対人サービス」の充実に重点的に予算配分を行うことで、もっと「人を大切にする」社会をつくっていきます。

また、豊かな緑と水辺を生かした、歴史的価値が大切にされる「人に優しい」まちづくりを進めます。住み続けられる港区へ。



チェンジ 2

強いまちづくり

首都直下地震の 「被害想定」を3年で半減へ

港区の被害想定は、建物全壊約800棟、エレベーター閉じ込め1300台以上、避難者約6万人、帰宅困難者約53万人。

この20年で、港区は人口が10万人以上増え、9割がマンション住民になり、タワーマンションも増え、街は激変しました。

しかし、港区の防災は、町会・自治会頼みのままです。専門家チームを設置し、マンション防災対策を進め、全国に先駆けた「都市型防災モデル」を早急に確立する必要があります。

港区では、「被害想定」を6年で半減するとしていますが、現実的な実効性ある防災対策に見直すことで、倍のスピードで半減させます。区民27万人の命を確実に守ります。



チェンジ 4

正しいまちづくり

区長の「任期」と「退職金」の見直し

区長の任期が長すぎることは、組織の硬直化、マンネリ、癒着など様々な弊害を引き起こすことが指摘されています。

区長が1期任期を終えるごとに約2000万円、5期で1億円以上の退職金が支払われる「区長退職金」のあり方も問題です。区長の任期を3期12年までとする「多選自粛条例」を制定し、退職金はカットします。任期内に計画を完遂し、未来にバトンをつないでいく仕組みを作ります。

